～人権が尊重されるまちをつくろう～
～身近な生活の中から学ぼう～

2022.2.21
第76号

人権・同和教育だより 丹波篠山

発　行
丹波篠山市
人権・同和教育研究協議会
TEL･FAX 079-593-1260
http://t-s-doukyou-hr.jp
〒669-2734 丹波篠山市宮田240
丹波篠山市役所 西紀支所3F
年3回発行 6･10･2月

研究大会報告　第23回丹波篠山市人権・同和教育研究大会を終えて

大会テーマ：人権の歴史を学び　今に生かす

2021年12月11日（土）四季の森生涯学習センターで約300名の参加者を得て、研究大会を開催しました。外川正明さん（京都教育大学名誉教授）に基調講演をいただきました。今年度は新型コロナ感染拡大防止のため分科会は開催しませんでしたが、外川さんの基調講演から差別解消のために立ち上がった人々の強い意志を深く学ぶことができました。

基調講演　『いま改めて部落史に学ぶ』～DVD「水平社を立ちあげた人々」を視聴して～（概略）

外川正明さん（京都教育大学名誉教授）

《「部落差別解消推進法」が求めていること》

この法律は差別をした人を罰することや、差別をされた人を救済することにふれていない不充分さがありますが、この法律によって部落差別解消に向かう流れが変わった気がします。これまでの法律は被差別部落にある様々な差別の実態の改善に重点が置かれていました。しかし、今回の法律は部落差別の解消は、部落の人たちの課題ではなく、むしろ部落外の人たちへの教育や啓発を求めたもので、差別の加害者をつくらないことを大きな目的としています。

《部落史の研究が提起したこと》

日本史や各地の地域部落史の研究の深まりによって、新しい事実が次々明らかになり、かつての部落の歴史のとらえ方が間違っていたことが分かってきました。「士農工商」という身分制度がなかったことや、被差別部落は決して貧しかったのではなく、果敢に差別に立ち向かって、たくましく生きてきたことが明らかになってきました。学校の歴史の教科書も変わり、部落史教育の転換へとつながっていきました。

《生徒のいじめ体験から教えられたこと》

学校現場で、大きな課題となっているいじめは、いじめられる側ではなくいじめる側の問題です。差別も差別する側の問題です。部落差別は誰の問題かを考えた時、差別の悲惨さを学ぶことや、被差別部落の人々のために学ぶのではなく、「人はなぜ差別をするのか」を自分自身に問いながら学習することが大切なのです。つまり、単に教える内容や方法を見直すだけでなく、学習の目的を問い直すことが求められています。

《DVD「水平社を立ちあげた人々」に込めた思い》

1922 年 3 月に京都市岡崎の公会堂で全国水平社の創立大会が開催されました。水平社は西光万吉だけではなく、全国各地の多くの若者たちが立ち上がり創立されました。驚くことに、10 代から 30 代を中心に多くの若者たちによって全国に広がっていきました。その時、発せられた水平社宣言には「人間を尊敬することによって自らを解放せんとする」という一文があります。また西光万吉も「あの宣言の中心的な考え方というのは、人間は尊敬すべきものだということ」と述べています。差別の反対語は、平等や公平ではなく、尊敬ではないでしょうか。「人を差別する」のではなく、「人を尊敬する」ということが差別解消につながるのだと思います。

【参加者の声】

- 差別に立ち向かうため、仲間と水平社をつくった勇気に感動しました。
- 市内の全小・中学生に今回の DVD を見て欲しいと思いました。
- 差別というのは差別する側の問題であるということがよく分かりました。
- 温かく、厳しい問いかけに目が覚めた気がしました。

※DVD「水平社を立ちあげた人々」をご覧になりたい方は、丹波篠山市同教までお問い合せください。

「人権・同和教育セミナー2021」より

今年度から、人権学習をもっと深めたい方や、次世代の人権教育研究のリーダー育成のため、年間５回の連続講座を企画しました。今号ではセミナーの内容と参加された方々の感想を紹介します（第１回は会報第75号にて紹介しています）。

第２回「丹波篠山　人権の歴史　古文書に見る丹波篠山の人権の歴史　差別と闘った先人に学ぶ」　10月2日（土）開催

講師　今井　進さん（丹波篠山市部落史研究会）

古文書から近世の身分の階級制度やその差別、当時の生活の様子などを読み解き、差別と立ち向かった人々の生き方をお話しいただきました。

【参加者の声】

＊知らないという事は、人を傷つけてしまう可能性も含めているということを心に、学び続けていきたいと考えます。

＊丹波篠山の人権の歴史を学び、知らないことがたくさんありました。これからもっと知り、正しい知識をもつことが大事だと改めて思いました。

＊丹波篠山市でも歴史の中に多くの差別があったことを知りました。今、差別があったとき、何ができるのか、過去を知る事は大切なことだと思いました。

第３回「人権の歴史1　中世～近世　部落差別の発生と制度化」　11月3日（水）開催

講師　上杉　聰さん（元大阪市立大学教授）

「士農工商」という身分制度が間違いであることを指摘され、部落はその「最底辺」ではなく、「社会外」を意味するものとして起源をもつことや、中世の身分制度の構造などを語られました。

【参加者の声】

＊どのようにして身分制度が始まり、固定化につながったのか知ることができました。

＊差別の発生と制度化は自分が認識しているものよりも複雑でした。認識を改めていきたいです。

＊今までぼやけていた部落差別のおこり、中世の流れが理解できたように思いました。

第４回「人権の歴史2　明治維新～現代　差別が残された構造」11月20日（土）開催

講師　上杉　聰さん（元大阪市立大学教授）

明治4年の「賤民廃止令」は、差別を無くそうとする解放令ではなかったことを、様々な資料をもとに実証され、また身分を戸籍制度によって管理されていた実態を説明いただきました。

【参加者の声】

＊資料、根拠にもとづくお話でとても勉強になりました。明治の「賤民廃止令」以降のことをもっと詳しく聞きたいです。

＊差別への「怒り」を改めて自分の中に認識できました。特に、「家」制度の話も含めてもっと知りたいと思いました。

＊学ばなければいけないことがたくさんあることを知りました。

第5回　「差別をなくす主体者として　部落差別のない社会を ～自他ともに輝くために～」
1月29日（土）　講師　春川　政信さん（三木市人権･同和教育協議会　副会長）
※新型コロナ感染拡大防止のため中止とさせていただきました。

専門部会研修会　各専門部会の研修会等を紹介します

高齢者部会学習会　年間

市内の各老人クラブや支部で、新型コロナ感染状況をみながら取り組んでいます。第6福寿会では「命を守る防災」をテーマに学習会を開催しました。他の老人クラブでも、同和問題をはじめ、日常生活の人権など様々なテーマで学習しています。

男女共生部会研修会　11/15

テーマ「ジェンダー平等で暮らしやすい地域づくりを！」
講師：北村久美子さん
（生涯学習応援隊SO-SO.39）

【参加者の声】
●課題解決に対する意見交換の体験ゲームでいろんな人の思いを聞き勉強になりました。
●課題を決めて話し合うことで、自分の考えがまとまりよかったです。
●何度も同じようなテーマで研修することで、長年うえつけられた考えを変えていけるようにしたいと思います。

保・幼部会研修会　10/19

テーマ「元気が一番～子どもの自尊感情、自己肯定感を高めるために～」
講師：仲島正教さん（教育サポーター）

【参加者の声】

●保育、そして自分の子育てにも活かすことのできるお話でした。「優しさは使えば増えていく」という言葉が印象的でした。すぐに使っていきたいと思います。
●仲島先生の熱い思いが伝わってきました。とても共感できることばかりでした。笑顔を忘れず子どもたちを応援していきます。
●子どもの声に耳を傾け、寄り添うことの大切さを改めて学ぶことができました。明日からまた元気に、子どもと向き合う気持ちになりました。

学校部会研修会　11/16

テーマ「対話を通して生き方について考え深める道徳科の授業」
講師：春川政信さん
（三木市人権・同和教育協議会　副会長）

【参加者の声】

●一番つらい人の立場に立って考えていくこと、また自分と他の子を同時に大切にする学習ルール、学校で活かしていきたいと思いました。
●道徳の授業の中に人権の視点を持つことで、自分も相手も周りの人も大切にするための生き方が考えられるのだと思いました。
●道徳教育と人権教育は決して別のものではなく、両方が関係性をもって共存していることを改めて学びました。「自分だけでなく自分も他人も幸せにするにはどうしたらいいか」という観点は、とても心に残りました。

障がい者部会啓発チラシ設置・配布　11月末から

「障害者週間12月3日～9日」を中心に11月末から、市内の公共施設や事業所など計40箇所に設置、また市内の3高等学校の全生徒へ配布しました。市同教研究大会でも配布し、合計で約3000枚の啓発チラシを設置・配布しました。この活動には市内の多くの方々にお世話になりました。

PTA部会研修会　1/23

テーマ「ウィズコロナ時代の保護者のあり方」　講師：原　清治さん（佛教大学副学長）
※新型コロナ感染拡大防止のため中止とさせていただきました。

以下に予定しています研修会は、新型コロナ感染拡大防止のため中止とさせていただきます。

※地域部会研修会（中止）

日　時：3月1日（火）19：30～21：00
テーマ：「丹波篠山の戦前から戦後にかけての在日の歩みを知る」
講　師：丹波篠山市在日コリアン足跡調査研究・銘板設置の会

※宗教部会研修会（中止）

日　時：3月3日（木）13:30～15:00
テーマ：「古文書に見る丹波篠山の人権の歴史」
講　師：今井　進さん
（市同教啓発推進委員）

※企業部会研修会（中止）

日　時：3月8日（火）18:30～20:00
テーマ：「古文書に見る丹波篠山の人権の歴史」
講　師：今井　進さん
（市同教啓発推進委員）

暮らしの中から

「多様な性の在り方が尊重される社会をめざして」

多様な性のあり方を認め合う社会に向けて、LGBT（女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、性同一性障がい者を含む、心と出生時の性別が一致しない人の性的少数者の総称）の子どもたちの生きづらさに寄り添う取り組みが進んでいます。

最近はいろいろな色のランドセルを背負った子どもたちを目にするようになりました。また、学校のシューズの色が男の子は青色、女の子は赤色といったカラーではなく自分の好きな色を選べるようになっています。

制服や体操服についても長さや種類を選択できるようになってきています。「体の性」と「心の性」が一致しない性同一性障がいの子どもたちのために、いろいろな取り組みがされてきています。

また、今年の成人式は2年ぶりに実施されました。男性はスーツやはかま、女性は振袖といったイメージですが、会場には女性のスーツ姿も見られました。丹波篠山市においても多様化してきているのが実感できました。

しかし、尼崎市では同性愛を告白した男性職員に対し、幹部職員が指導を行った事例がありました。誰もが自分らしく暮らしていく社会のために、日常生活の中で、性的少数者がいると考えること、見た目で人の性のあり方を決めつけないこと、当事者が傷つくような否定的な言葉は使わないようにすることなどが大切だと思います。

（中井慎太郎）

「心の中の鬼退治」

4歳の孫が、「じいちゃん、節分には鬼がくるの？ 鬼はどこにいるの？」と聞いてきたことがありました。これまで、節分の日に保育園や家で豆まきをしたことがあるようで、孫の心の中には鬼は大きく角も生えていて怖いというイメージが残っているようでした。

今年の節分は2月3日でしたが、豆まきをしたり「恵方巻き」を食べたりした家庭もあったことでしょう。節分の豆まきは、昔、災害や病気、飢餓（きが）などの人間の想像を超えた出来事は鬼の仕業とされ、その鬼を追い払うために行われるようになったそうです。「鬼は外、福は内」と言いながら豆まきをするのが一般的ですが、鬼は外からやってくるだけではありません。鬼は私たちの心の中にも潜んでいるのです。

私は、数年前まで小学校や幼稚園に勤務していました。2月の節分の時期になると、子どもたちに自分の心の中にはどんな鬼がいるか考えてもらいました。「泣き虫鬼」「いじわる鬼」「なまけもの鬼」「ちらかし鬼」「忘れもの鬼」など、子どもたちは普段から保護者や先生から言われたことがあるのか、いろいろな鬼をあげていました。そして、「鬼は外、福は内」と言いながら豆をまき、自分の心の中の鬼も追い払うのでした。

では、私たち大人の心の中はどうでしょう。子どもたちの鬼よりもっと怖い鬼がいるかもしれません。

私自身を振り返って考えてみると、仕事を退職してからは時間的な余裕も生まれ、比較的のんびりとした生活を送っています。しかし、その分、他の人との関わりやコミュニケーションの機会が少なく、ついつい相手への心配りや思いやりの心を忘れがちになり、自己中心的な考えが広がっているようにも感じています。また、現職のときは、人権に関わる研修会や講演会等に参加して学習を重ねていましたが、今はなかなかできていません。それなら、自分から機会を求めて積極的に行動すればいいのかもしれませんが、それも難しい状況です。「自分勝手鬼」「なまけもの鬼」「無関心鬼」といった鬼が私の心の中に潜んでいて、少しでも油断をするとまた新しい鬼が入ってきそうです。

心の中の鬼は、「鬼は外、福は内」と唱えて豆をまくだけでは退治できません。これからは、まず身近な家庭生活から見つめ直し、「ありがとう」「お疲れ様」など感謝の気持ちを言葉にして家族に伝えることから始めていこうと思います。みなさんなら、心の中の鬼をどのようにして退治しますか？

最後に、鬼に対して怖いイメージを持っていた孫には「優しい鬼もたくさんいるよ」と言っておきました。すると、少し安心したのか「優しい鬼が来たら一緒にあそぶ！」と笑顔で答えていました。

（細見秀司）

丹波篠山市同教企業部会　会員募集中！

社員一人一人の人権が尊重され、元気に仕事ができる職場づくりのためにも是非ご加入ください。毎年、企業向けの人権研修会などを開催しております。

お問合せ先　丹波篠山市人権・同和教育研究協議会事務局
TEL・FAX　079－593－1260

編集後記

新型コロナウイルスの影響で、日常生活にデジタル技術も急速に広がりました。多くの事がリモート化され、仕事や授業などの一部も人々の対面形式ではなく、コンピュータ画面を通して場所を選ばずできるようにもなりました。こうしたデジタル技術は便利で、さらには人々の移動にともなう二酸化炭素削減にもつながります。

その一方で、デジタルディバイドという課題があります。デジタルディバイドとは、インターネットなどの情報通信技術を利用できる人と、そうでない人の間にもたらされる「情報格差」の事を言います。この技術を十分に利用できない人々は「情報弱者」と呼ばれています。

今後、情報のデジタル化が進んでいくことで「情報弱者」は、知識やコミュニケーションの少なさから、社会的・教育的・経済的格差の更なる拡大や孤立化、また犯罪に巻き込まれる可能性、緊急時の危険性などが考えられます。

誰もがデジタル技術の恩恵から取り残されないよう、新型コロナ感染症に気をつけながら、普段からのさりげない声かけや、地域で見守り交流して様々な情報を共有する事などが、より大切になってくるのではないでしょうか。